

インターバンクの声（2016年3月10日）

この2週間、はっきりとした相場観が持てない日々が続いているが、どうもシンガポールやニューヨークで頑張っている仲間も似たような状況にあるようだ。こちらはドル円中心の取引だが、彼らはユーロ・ドルや豪ドル・円の取引が中心だが、彼ら自身を含め周りには英ポンドや欧州通貨のクロス、新興国通貨の担当に至るまで、今年に入ってから満足する結果を出し続けているディーラーはほとんどいないらしい。皆それぞれ中国経済の失速懸念や世界的な株価低迷、原油価格の低迷の長期化などが金融市場の混乱の原因になっていることを共通認識として持っているが、日々、個別通貨ペアの原油価格や株価の変化に対する反応がまちまちになっていることが、日々の結果を出すことを難しくしているようだ。ただ、ニューヨークの仲間が電話を切る前にふと漏らした話が、もしかしたら最近のインターバンク市場の元気の無さの根底なのかも知れない。昨年後半からずっとリストラが続いており、日々話していた仲間が一人、二人と辞め、毎日情報交換していた原油トレーダーも2月末で辞めたそうだ。「明日はわが身」が雰囲気をも暗くしているらしい。そうした中、今夜は欧州中央銀行（ECB）の理事会がある。ユーロの担当者ならずとも今後の相場展開を見極める上でも見逃すわけにはいかない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。